



〒 242-0007 大和市中心林間 3-16-12 グリーンコーポ中央林間 107

電話 / Fax 046-272-8980 Email: toiwase@edventure.jp URL <http://edventure.jp/>

年次総会の開催と教育講演会の報告

2月23日の午前中にEd.ベンチャーの定期総会が開催されました。各事業の継続が提案される一方、平和への願いが色濃く打ち出された総会となりました。次に掲げたのは、総会開催にあたり、内藤会長が挨拶で述べた内容です。ここにわたしたちが取り組む方向性が、明確に打ち出されています。

2007年に発足したEd.ベンチャーは、今年で17年目になります。この間私たちは、細々とではありますが、「弱い立場に立たされている子どもたちの支援や多様性が認められる社会の構築、そして誰もが安心、安全に暮らせる日常の創出」を願って活動してきました。

しかしながら、昨今の状況は、決して私たちが願ってきた方向には向かっておらず、世界に目を向けても戦争が止まる気配も無く、更に、日本がこれらの戦争に積極的に加担していく方向に舵が切られ始めています。東日本大震災の際の原発の悲惨さを経験してもなお、原発を再稼働し続けようとしていることもそうです。更にマスメディアも的確な情報をきちんと伝える能力を失いつつあり、今進行している憂うべき事態を正しく知る権利さえ奪われてきています。

そんな中でも一筋の光が見えるのは、今もなお平和憲法を守る戦いを続けている仲間がいること、毎週国会前などで反原発運動を続けている人たちがいること、田中優子（前法政大学総長）と前川喜平（現代教育行政研究会代表）が共同代表となり「テレビ輝け！市民ネットワーク」が設立され、ネットワーク構築が始まったことです。

更に、本当に救われた気持ちになったのは、能登半島地震の被害を受けた珠洲市が、1975年に持ち上がった「珠洲原発計画」を28年間にも及ぶ闘争の末、2003年12月に凍結させたために、今回の地震において、原発事故の大災害を食い止めることができたという事実を知った時でした。

そうは言っても今回の災害の復旧は遅々として進まずいまだに多くの人々が、日常生活を送れないことに心が痛みます。地方軽視の結果とも言えます。

「世界が金と力で動かされ、利己主義や敵意、我執や妬みで満ちているとはいえ、この世界をかるうじて破滅から守っているのは、「支え合う」という善意の努力かもしれません。」

これは、アフガニスタンで亡くなられた中村哲氏の言葉ですが、私たちは、この「支え合い」を忘れずに活動し、子どもたちに少しでもよりよい未来を手渡せるように活動していきたいと思えます。

教育講演会「平和教育」

総会での各事業については承認され、午後からは教育講演会が開催されました。

今年の教育講演会の講師は、東京女子大学の竹内久顕先生で、演題は「未来への責任～平和教育を考える～」でした。当日の資料から、その要点だけをまとめてみます。

竹内先生は、講演のスタートとして平和教育の現状を整理されました。

- ・過去の戦争の「リアルさ」が薄れ、戦争体験の伝承や継承がより難しくなる中、今日の戦争や紛争の「リアルさ」は切実さを増し、平和創造への道筋が見えにくい。(2つのリアル)
- ・日本の平和教育は、戦争（とりわけ十五年戦争）に関する教育だった。
- ・平和教育の三つの目標が掲げられてきた。

①戦争の非人間性・残虐性を知らせ、平和の尊さと生命の尊厳を理解させる。

②戦争の原因を追求し、引き起こす力と本質を科学的に認識させる。

③戦争を阻止し、平和を守り築く力とその展望。

以上のような取り組みが平和教育で進められてきたが、3つの乖離が生まれている。

- ・三つの乖離

①過去の戦争と今の現実の乖離・・・今の時代に生まれてよかった

②遠くの戦争と身近な現実の乖離・・・日本に生まれてよかった



③ 平和の理想と今日の現実の乖離・・・平和憲法の理想が素晴らしいが、現実はどう
こうした現状の上に、竹内先生からは、具体的にこれからの平和教育をどう作ればよいのだろ
うか、という視点での提案がいくつかありました。何点かを紹介します。

☆☆ これからの平和教育をどう創るか ☆☆

* 発達段階を踏まえた戦争の教え方はどう工夫すればよいのか

- ① 「戦争の悲惨さ」の伝え方の工夫・・・リアルに取り上げなくても伝えることは可能
『戦火の中の子どもたち』(いわさきちひろ) → 子どもの顔に注目
言葉を通じた想像力 → この力がなければ戦争体験者の苦悩に共感できない
例 「少し食べ」と「少しかじり」(「ちいちゃんのかげおくり」)
- ② 物・動物の活用
「かわいそうなぞう」(戦争の悲しさ) → 「ぞうれっしゃがやってきた」(平和の願い)
地域の墓碑調べ → 身近な地域の中に戦争を発見

* 当たり前前の「日常」=「平和」に着目してみよう

- ① ひめゆりの平和記念資料館 → リニューアルのテーマ「戦争からさらに遠くなった世代へ」
- ② 「ちいちゃんのかげおくり」 → 平凡な日常生活の中に平和を発見
- ③ 「平和の素晴らしさ」から「戦争の悲惨さへ」 → 前者がなければ後者は伝わらない
・ 地域の伝統・文化・自然の素晴らしさ VS 空襲による破壊 → 地域の中に平和と戦争を見つける

* 戦争体験をどう伝えればよいのか

- ① アートの力を活用 → 表現(外化)することで知識・情報を血肉化する
例 広島市基町高校の生徒の原爆の絵・被爆者の語りを聴いては描き、描いては聴き・・・
例 東京都武蔵野市の小中学校で、武蔵野空襲(1944/11/24)の体験談を劇化
- ② 非体験世代から非体験世代へ → 戦争体験の「新しい伝える人」を育てる
例 修学旅行に行った6年生から下級生への縦割り報告会
- ③ 反実仮想(「もし自分がその時の〇〇だったら」) → 自らをその場においてみる
例 ヒトラー政権の学習をした後で「もしあなたがヒトラー政権期のドイツ人で、幼なじみがユ
ダヤ人だったらどうするか」と問う(高校世界史菅間正道実践)

* シティズンシップ教育をどう活用するか

- ① デジタル・シティズンシップ教育の始動
・ 「デジタル技術の利用を通じて、社会に積極的に関与し参加する能力」欧州評議会
・ メディア情報リテラシー(MIL)の教育の重要性
- ② 子どもたちこそが学校の主権者 → 校則問題に取り組む

教育講演会の感想

つつい平和教育というと、過去の戦争の悲惨さを強調し、「戦争はよくないことだとわかり
ました」と子どもたちが感想文に書いてくれれば、まあ「やったかいあり」と自己満足で終わり
がちでしたが、講演を聞いて、子どもたちの成長や感性に沿って、学習の幅を広げ、柔らかく学
びを積み上げていく姿勢が重要であることに気づかされました。大和市の現場でも、様々な取
組みが生まれることに期待したいと思います。

今年度は、Ed.ベンチャーは、平和教育を追求していきます。

これからのEd.ベンチャーの学習会

● 外国人の子ども理解のための学習会@大和市シリウス

講演会 4月23日(火) 19:00~21:00 講師: 清水睦美氏(日本女子大学教授)
外国ルーツの子どもたちの来日経緯を知るー自分史づくりがもたらす可能性

● 理論学習会@大和市シリウス

学習会 4月27日(土) 13:30~15:30 戦後の学力観における学校現場の限界

● 授業研究会@大和市シリウス

学習会 4月27日(土) 16:30~18:00 4月の教室空間で起きていること

● インクルーシブな社会を目指す学習会

講演会 5月8日(水) 19:30~21:00
講師: 相澤京美氏(NPO法人子どもアドボカシーを進める会TOKYO)
子どもアドボカシーを知っていますかー子どもの声を聴く意味 そして私たち一人ひとりができることー
講演会 6月4日(火) 19:30~21:00 講師: 竹本弥生氏(県立高校校長)
インクルーシブ教育実践推進校から見るインクルーシブ教育のこれから

◆理事のひとこと◆ 2024年度が始まります。新入生の顔をみていると、緊張の中にも、不安と期待が入り混じった様子をうかがうこと
ができます。学校教育には、年度当初のかれらの不安を和らげる一方で、かれらの期待に応じて、その好奇心や探求心をくすぐるような
教育活動が求められているように思います。子どもたちの期待を裏切らない、そんな学びの場を作っていきたいと強く感じます。(SM)